

松本朗教授 略歴・研究業績一覧

学 歴

- 1981年3月 國學院大學経済学部卒業
1989年3月 國學院大學大学院経済学研究科博士課程後期課程単位取得満期退学
2002年11月27日 博士（経済学，國學院大學）

職 歴

- 1990年4月 愛媛大学法文学部講師
1992年7月 愛媛大学法文学部助教授（金融論）
1999年10月 文部省在外研究員（カリフォルニア大学リバーサイド校，アメリカ合衆国）～2000年8月
2001年4月 愛媛大学法文学部教授
2005年4月 立命館大学経済学部教授
2014年9月 ミズーリ州立大学カンザス・シティ校，アメリカ合衆国，客員研究員
2022年9月 リーズ大学（英国）ビジネス・スクール 客員研究員 ～2023年3月

学内での役職

- 2010年～2011年 経済学部学生主事
2011年～2012年 経済学部副学部長（教学）
2012年～2013年 経済学部副学部長（企画）
2015年2月～2018年 経済学部長
2018年～2021年 経済学研究科長

研究業績

《1. 単著書》

- (1) 『円高円安とバブル経済の研究』駿河台出版社，2001年10月1日
(2) 『入門 金融経済—通貨と金融の基礎理論と制度—』駿河台出版社，2009年4月24日
(3) 『改訂版 入門 金融経済—通貨と金融の基礎理論と制度—』駿河台出版社，2013年4月10日

《2. 編著書》

- (1) 『グローバル経済と債務累積の構造』晃洋書房，2021年3月15日

《3. 論文》

- (1) 「外国為替取引と貨幣取扱資本について」『経済論集』（國學院大學大学院経済学研究科）第

- 11号, 1983年3月31日
- (2) 「中世為替契約と外国為替取引の本質について」『経済学研究』(國學院大學大学院経済学研究科紀要) 第16輯, 1985年3月10日
 - (3) 「外国為替取引とマーチャント・バンカー」『経済学研究』(國學院大學大学院経済学研究科紀要) 第18輯, 1987年3月10日
 - (4) 「外国為替手形と信用状—外国為替論争を射程において—」『経済学研究』(國學院大學大学院経済学研究科紀要) 第19輯, 1988年3月10日
 - (5) 「信用制度の二側面についての考察—個別資本視角からの信用論の克服をめざして—」『愛媛経済論集』(愛媛大学経済学会) 第10巻第2号, 1990年12月3日
 - (6) 「実質為替相場と名目為替相場の理論的・実証的検討—70年代後半~80年代を事例として—」『愛媛経済論集』(愛媛大学経済学会) 第11巻第1号, 1991年7月25日
 - (7) 「アメリカにおける金融不安定性の要因はなにか」『愛媛経済論集』(愛媛大学経済学会) 第12巻第1号, 1992年7月30日
 - (8) 「バブルと円高—「バブル不況」はどう克服されるべきか—」『経済科学通信』(基礎経済科学研究所) 第75号, 1994年3月10日
 - (9) 「銀行本質論からみた郵便貯金問題」『経済学』(愛媛大学法文学部紀要 経済学科編) 第28号, 1994年9月9日
 - (10) “The Crisis of the Japanese Economy”『愛媛経済論集』(愛媛大学経済学会) 第15巻第1号, 1996年3月25日
 - (11) 「外国為替相場変動の2要因」『経済理論学会年報』(青木書店) 第33集, 1996年10月1日
 - (12) 「変動為替相場と今治のタオル産業—セーフ・ガード発動は必要—」『IRC 調査月報』(いよぎん地域経済研究センター) 第102号, 1996年12月1日
 - (13) 「為替相場変動の地場産業への影響—造船業を中心に—」『郵政研究所月報』(郵政省郵政研究所) 第101号, 1997年1月27日
 - (14) 「為替相場・比較生産費構造・内外価格差」, 日本金融学会編『金融経済研究』(東洋経済新報社) 第11・12号, 1997年3月31日
 - (15) 「日銀特融はインフレマネーの供給になるのか」『行財政研究』(行財政総合研究所) No. 35, 1998年2月25日, 20-28
 - (16) “Difference between the Appreciation or the Depreciation of Yen and the Overvaluation or the Undervaluation of Yen”, 『愛媛経済論集』(愛媛大学経済学会) 第17巻第3号, 1998年3月25日
 - (17) 「円高・円安の分析視角—外国為替相場変動の2要因に基づいて—」『信用理論研究』(信用理論研究会) 第16号, 1998年5月
 - (18) 「地域経済から見た金融ビッグ・バン」『経済科学通信』(基礎経済科学研究所) 第87号, 1998年7月1日, 48-55
 - (19) 「金融ビッグ・バンの概要とその背景」『IRC 調査月報』(いよぎん地域経済研究センター) 第122号, 1999年8月1日
 - (20) 「地域経済における郵貯資金活用のあり方—高齢化先進地域への資金活用と地場産業の育成

- という視点から—』『郵貯資金研究』（(財)郵貯資金研究協会) 第6巻, 1999年8月
- (21) 「現代の外国為替市場と為替相場」上川・新岡・増田編『通貨危機の政治経済学』（日本経済評論社）平成12年12月5日, 306-332
 - (22) 「日銀の量的緩和とインフレーション」『経済』（新日本出版社）No. 72, 2001年9月1日, 118-142
 - (23) 「《研究》 バブルと不良債権問題」『経済』（新日本出版社）No. 75, 2001年12月1日, 143-158
 - (24) “The Japanese Bubble: Domestic and International Aspects”, ed. by Gary Dymksi and Dorene Isenberg, *SEEKING SHELTER ON THE PACIFIC RIM: Financial Globalization, Social Change, and the Housing Market.*, M. E. Sharpe, USA, 2002/2, 127-149
 - (25) 「デフレ問題をどう理解したらよいか」『経済』（新日本出版社）No. 79, 2002年4月1日, 28-40
 - (26) 「今次不況分析からの問題提起はなにか—春季研究交流集会での報告をうけて—」『経済科学通信』（基礎経済科学研究所）第99号, 2002年8月1日, 48-53
 - (27) 「デフレ問題とマネーサプライ」『IRC 調査月報』（いよぎん地域経済研究センター）第171号, 2002年9月1日, 14-21
 - (28) 「超金融緩和と『デフレ』とが共存する条件—インフレ発生の可能性をめぐる一試論—」『武蔵大学論集』第50巻第3号, 2003年2月, 91-111
 - (29) 「デフレの進行とグローバリゼーション—『経済財政白書』を手がかりにして—」『経済科学通信』（基礎経済科学研究所）第101号, 2003年4月1日, 33-41
 - (30) 「インフレ・デフレの非対称性と資産デフレ」『経済』（新日本出版社）No. 94, 2003年7月1日, 10-21
 - (31) Monetization of Gold and the de facto Standard of Price-Estimating the Depreciation Rate of the Dollar-, *Korean Journal of Political Economy*, Vol. 2, Korea Social and Economic Studies Association and Korean Association of labor Studies, Korea, 2004/7, 73-109
 - (32) 「金融活動と銀行資本—信用と通貨供給の基礎理論—」『別冊 立命館経済学』（立命館大学経済学会）, 第54巻特別号, 2005年10月10日, 122-126。
 - (33) 「『預金封鎖』という亡霊が残した教訓—終戦後インフレーションに学ぶ—」『経済』（新日本出版社）No. 123, 2006年1月, 153-165。
 - (34) 「変動相場制の調整機能再考」信用理論研究会『金融グローバリゼーションの理論』大月書店, 2006年2月, 60-71。
 - (35) 「対外決済と国際通貨」『立命館経済学』（立命館大学経済学会）, 国際経済学科設立記念特別号, 2006年9月18日, 97-115。
 - (36) 「消費者金融とその高利性をめぐる基礎理論的検討」『企業環境研究年報』（中小企業家同友会全国協議会・企業環境研究センター）, 第11号, 2006年12月, 45-57
 - (37) 「日米関係からみた日銀の超金融緩和と政策」『経済』（新日本出版社）, No. 135, 2007年1月

- 号, 100-116
- (38) 「誌上ゼミナール 国際通貨・金融から考える日米関係の異常」『経済』(新日本出版社), No.142, 2007年7月号, 90-102
- (39) 「日米関係からみた日銀の超金融緩和政策と為替介入」秋山誠一・吉田真広編『ドル体制とグローバリゼーション』駿河台出版社, 2008年, 137-163
- (40) 「現代における金 (Gold) の貨幣性—金生産, 金生産コスト, 金市場価格—」秋山誠一・吉田真広編『ドル体制とグローバリゼーション』駿河台出版社, 2008年, 239-276
- (41) 「戦後物価変動の変容と経済危機」『別冊 立命館経済学』(立命館大学経済学会), 国際経済学科設立記念特別号, 2009年, 175-188
- (42) 「証券化についての原理論的考察」, 『立命館経済学』(立命館大学経済学会), 58巻5*6号, 2010年, 512-524
- (43) 「下水道事業の民間委託と事業経営の効率化に関する調査研究—社会資本の維持管理高度化と効率化の観点から」, 『愛媛経済論集』, 29巻2*3号, 2010年3月, 53-67
- (44) 「物価変動の変容からみた2008年経済恐慌」, 『季刊経済理論』(経済理論学会), 47巻1号, 2010年4月, 25-35
- (45) 「08恐慌—通貨体制の変化の視角から—」『経済』(新日本出版社), 2010年8月, 179号, 144-157
- (46) 「現代の恐慌の特徴を考える—通貨制度の変遷を軸として—」『世界経済危機とマルクス経済学』(大月書店), 2011年3月, 21-38, 編者
- (47) 「歴史的円高の構造的要因を探る」『経済』(新日本出版社), 2012年2月, 197号, 101-111
- (48) 「金融・サービス分野での TPP 交渉と金融自由化」『経済』(新日本出版社), 2012年9月, 204号, 141-146
- (49) 「金融サービス分野における TPP 交渉から見えてくるもの」『TPP と日米関係』(晃洋書房), 2012年9月, 124-139
- (50) “On the Economic Crisis in 2008 from the View of Changes of Prices Movement”, *Edited by Kiichiro Yagi, Nobuharu Yokokawa, Shinjiro Hagiwara and Gary A. Dymski, Crises of Global Economies and the Future of Capitalism: Reviving Marxian Crisis Theory*, Routledge, USA, 2012/12, 108-124
- (51) 「経済危機下における日本銀行の金融政策」『日本の科学者』(日本科学者会議), 2013年2月, 12-17
- (52) 「金価値と金価格の動向とその理論についての考察—最近のドイツにおける研究動向を参考に—」『立命館経済学』(立命館大学経済学会), 第61巻第6号, 2013年3月, 344-359頁。
- (53) 「90年代以降の私立大学の財務と経営—立命館大学を事例に—」『大学創造』(高等教育研究会), 第28号, 2013年9月, 24-33。
- (54) 「経団連『経営労働政策委員会報告』の欺瞞性—矛盾とご都合主義の報告—」『月刊 全労連』(全国労働組合総連合) No.206, 2014/04, 13-23。
- (55) 「『異次元金融緩和』と円安・株高—アベノミクスは景気回復をもたらしたのか—」『経済』(新日本出版社) No.239, 2015/08, 131-145。

- (56) 「日本銀行の非伝統的金融政策の変遷と経済理論—マルクス経済学によるアプローチ—」『立命館経済学』第65巻第6号, 2017年3月, 142-156。
- (57) 「現在の国際通貨体制(変動相場制下)にゲームのルールはあるのか」『立命館経済学』第67巻第3号, 2018年9月, 21-33。
- (58) 「格差, 企業統治, 金融化を考える—『資本論』第3巻第5編第23章「利子と企業者利得をてがかりに—」, 『経済科学通信』(基礎経済科学研究所)第147号, 2019年1月, 63-70。
- (59) 「リーマンショック後の金融政策の特徴に変化があるのか—金融肥大化と変動相場制下におけるゲームのルール—」『信用理論研究』(信用理論研究会)第37号, 2019年5月, 39-61
- (60) 「岐路に立つ国際金融秩序—リーマンショック後10年, 懸念増す金融の不安定性—」大橋陽・中本悟編著『ウォールストリート支配の政治経済学』(文眞堂)2020年2月, 192-212
- (61) “Considerations on Inequality, Corporate Governance, And Financialization”, *Journal of Economic Issues* (the Association for Evolutionary Economics), Vol. 54 No. 2, June 2020, 334-340
- (62) 「森岡独占理論を考える—ヒルファディング批判を中心に—」『経済科学通信』(基礎経済科学研究所)第151号, 2020年8月, 18-23
- (63) 「債務累積と現代資本主義の変容—アメリカを中心とする長期統計にもとづく分析—」松本朗編著『グローバル経済と債務累積の構造』(晃洋書房), 2021年3月15日
- (64) 「商品と貨幣—マネーが引き起こす現象の本質をとらえる」基礎経済科学研究所編『時代はさらに資本論—資本主義の終わりのはじまり』(昭和堂), 2021年5月25日, 136-162
- (65) 「非伝統的金融政策とバブル, インフレ」『経済』(新日本出版社), No. 327, 2022年12月, 123-146
- (66) 「インフレ進行下でのFRBの金融引き締めと日本経済—円キャリー・トレードと円安の影響—」『政経研究』(政治経済研究所), No. 119, 2022年12月, 2-15
- (67) “Differences in unconventional monetary policy of both the Federal Reserve Board and the Bank of Japan”, *Journal of Economic Issues* (the Association for Evolutionary Economics), 2023/06, 57(4), 532-537

《4. その他》

[翻訳された論文]

- (1) “Die Krise der japanischen Wirtschaft”, Roderich Wahsner (Hrsg.), *Japans Arbeitsbeziehungen und Arbeitsrecht in Geschichte und Gegenwart-Soziale Schattenseiten eines Modells-*, Schriften der Hans-Boeckler-Stiftung, Band 28, Nomos Verlagsgesellschaft Baden-Baden 1996

[研究ノート]

- (1) 「西ドイツの研究グループの『為替相場論』をめぐる—インフレーションと外国為替相場変動—」『経済論集』(國學院大學大学院経済学研究科)第16号, 1988年3月31日
- (2) 「不良債権問題とバブル期以降の銀行業」『中小商工業研究』(全商連付属・中小商工業研究

所) 第69号, 2001年10月1日

[調査報告]

- (1) 「公的金融と郵便貯金をめぐる論点と今後の課題」, 和田, 中西, 松本著『高齢化時代の地域社会と郵便貯金の役割—保健・医療・福祉の実態調査を中心に—』(四国郵政局貯金部), 1997年
- (2) 「下水道事業をモデルにした社会資本の維持管理の効率化研究の意義」, 愛媛大学総合地域政策研究会『松山市下水道管理高度化と事業経営に関する調査研究』, 1-5, 2005年7月
- (3) 「社会資本の維持管理の高度化及び効率化研究の意義」, 愛媛大学総合地域政策研究会『松山市下水道管理高度化と事業経営に関する第二次調査研究報告書』, 1-9, 2006年6月

[解説]

- (1) 「18世紀末イギリスにおける外国為替取引の一端」F. ベアリング著 (イギリス金融史論研究会訳)『イングランド銀行論』(日本経済評論社) 1988年4月1日
- (2) 「タオル産業をどのように分析するか」『愛媛の自治』(愛媛県自治体問題研究所) No. 78, 1997年3月
- (3) 「金融ビッグ・バン」『経済科学通信』(基礎経済科学研究所) 第86号, 1998年4月2日
- (4) 「タオル産業のセーフ・ガード問題」『経済科学通信』(基礎経済科学研究所) 第97号, 2001年12月1日
- (5) 「デフレ対策の誤謬」『愛媛の自治』(愛媛県自治体問題研究所) No. 93, 2002年10月
- (6) 「TPP 交渉への参加見送りとそこから見えてくるもの」『経済科学通信』(基礎経済科学研究所) 第130号, 2-5, 2012年12月31日
- (7) 「異次元金融緩和」『しんぶん赤旗 日曜版』2015年11月15日号
- (8) 「異次元金融緩和と株高」『しんぶん赤旗 日曜版』2015年11月15日号
- (9) 「格差を広げる『アベノミクス』という仕組み」『自然と人間』(自然と人間社) No. 236, 22-25, 2016年2月。
- (10) 「ヘリコプターマネー①」『しんぶん赤旗 日曜版』2016年8月28日号
- (11) 「ヘリコプターマネー②」『しんぶん赤旗 日曜版』2016年9月4日号
- (12) 「“財政政策で物価上昇”論」『しんぶん赤旗 日曜版』2017年4月9日号
- (13) 「アベノミクス4年半 企業増益, 家計は低迷 極まる矛盾」『しんぶん赤旗 日曜版』2017年9月24日号
- (14) 「マルクス生誕200年 色あせない経済分析力に再注目」『しんぶん赤旗 日曜版』2018年1月28日号
- (15) 「MMT (現代貨幣理論) 論争 国民潤す財政支出か否かが焦点」『しんぶん赤旗 日曜版』2019年6月30日号
- (16) 「『仮想通貨』リブラ 巨大IT企業に個人情報さらに集中」『しんぶん赤旗 日曜版』2019年9月8日号

[書 評]

- (1) 「山口義行・小西一雄著『ポスト不況の日本経済』（講談社現代新書，1994年）」『経済科学通信』（基礎経済科学研究所）第78号，1995年4月10日
- (2) 「吉田暁著『決済システムと銀行・中央銀行』（日本経済評論社，2002年）」『金融経済研究』（日本金融学会）第19号，2003年3月，111-113
- (3) 「相沢幸悦著『ユーロ対ドル—アメリカ単独行動主義とその破綻の構造—』（駿河台出版社，2003年）」『週刊 読書人』（(株)読書人）第2525号，2004年2月20日，6
- (4) 「相沢幸悦著『ユーロ対ドル—アメリカ単独行動主義とその破綻の構造—』（駿河台出版社，2003年）」『経済』（新日本出版社）No. 109，2004年3月，140-141
- (5) 「米田貢著『現代日本の金融危機管理体制—日本型 TBTF 政策の検証—』（中央大学出版会，2007年）」『政経研究』（政治経済研究所），No.91，2008年11月，126-133。
- (6) 「徳永潤二著『アメリカ国際通貨国特権の研究』（学文社，2008年）」『経済』（新日本出版社），No.164，2009年5月，132-133。
- (7) 「建部正義著『金融危機下の日銀の金融政策』（中央大学出版部，2010年）」『政経研究』（政治経済研究所）第96号，2011年6月，146-153。
- (8) 「石倉雅男著『貨幣経済と資本蓄積の理論』（大月書店，2012年）」『政経研究』（政治経済研究所）第100号，2013年6月，96-102。
- (9) 「高田太久吉編『現代資本主義とマルクス経済学—経済学は有効性を取り戻せるか』』『経済科学通信』（基礎経済科学研究所）第136号，2015年1月，97-99。
- (10) 「飯田和人『現代貨幣論と金融経済—現代資本主義における価値・価格および利潤』（日本経済評論社）」経済理論学会編『季刊 経済理論』（桜井書店），第59巻第4号，2023年1月
- (11) 「代田純編『入門銀行論』（有斐閣ブックス，2023年）」『経済』（新日本出版社），No. 338，2023年11月，102-103。

[紹 介]

- (1) 「吉田暁著『決済システムと銀行・中央銀行』（日本経済評論社，2002年）」『金融労働調査時報』（銀行労働研究会）No.627，2002年7月10日

[翻 訳]

- (1) E. ビクター・モーガン（小竹豊治 監訳）『貨幣金融史』（慶応通信）1989年7月26日
- (2) W. ブレイク（酒井一夫 監訳）『外国為替相場変動論』（駿河台出版社），1992年3月25日
- (3) R. ガットマン「信用貨幣はどのように経済を形造るか—グローバルシステム下のアメリカ—(1)』『愛媛経済論集』（愛媛大学経済学会）第20巻第2号，2000年12月25日
- (4) R. ガットマン「信用貨幣はどのように経済を形造るか—グローバルシステム下のアメリカ—(2)』『愛媛経済論集』（愛媛大学経済学会）第20巻第3号，2001年3月25日
- (5) R. ガットマン「信用貨幣はどのように経済を形造るか—グローバルシステム下のアメリカ—(3)』『愛媛経済論集』（愛媛大学経済学会）第21巻第1号，2001年10月25日
- (6) G. ディムスキ（井村進哉，松本朗 監訳）『銀行合併の波（バンク・マージャー・ウェー

- ブ) —銀行統合の経済要因と社会的帰結—』日本経済評論社, 2004年1月30日
- (7) ステファン・クルーガー「世界市場における価値法則の修正」『北海学園大学 経済論集』第61巻第4号, 2014年3月, 29-46。
- (8) ジャック・レアルドン「経済学教育の急進的な改革」(“A Radical Reformation of Economics Education”)『立命館経済学』第66巻第5号, 88-111, 2018年1月

[編 集]

- (1) 経済理論学会編『季刊 経済理論』(桜井書店), 第43巻第3号, 2006年10月(「編集にあたって」, 3-4)。

[学会報告]

- (1) 「信用制度論をどのように捉えるべきか」, 中四国商経学会 (広島修道大学), 1991年12月8日
- (2) 「実質為替相場と名目為替相場の理論的・実証的研究」, 信用理論研究会関西部会 (大阪市立大学文化交流センター), 1992年2月8日
- (3) 「円高・円安の分析視角—外国為替相場変動の理論・展開の試み—」, 信用理論研究会1997年度春季大会 (千葉商科大学), 1997年6月2日
- (4) 「国際資本移動と不動産価格」日本金融学会西日本部会 (松山大学), 1999年7月10日
- (5) “International Capital Movements and Real Estate Prices-Japanese Investments in U.S. Real Estate during the 80s and 90s” The Allied Social Science Associations Annual Conference / Association for Evolutionary Economics (Boston, USA), 2000.1.9
- (6) “Banking Crisis in Japan and the U.S.: The Case of Japanese Regional Banks”, The Western Social Science Association, the 42nd Annual Conference/ Association for Institutional Thought (San Diego, USA), 2000.4.29
- (7) “The de facto Standard of Price and the product Cost of Gold”, The 4th International Gala Conference / Association for Economic & Social Analysis, (the University of Massachusetts at Amherst, USA), 2000.9.24
- (8) “The de facto Standard of Price and the product Cost of Gold: Estimating the Depreciation Rate of the Dollar” The 8th Mini-Conference of the International Working Group on Value Theory (IWGVT)/ the Eastern Economic Association (EEA), New York City, USA, 2001.2.24
- (9) 「不良債権額の推計」経済統計学会 関東支部例会 (立教大学), 2002年11月9日
- (10) Monetization of Gold and the de facto Standard of Price-Estimating the Depreciation Rate of the Dollar-, The Summer Conference of the Korean Social Economic Studies Association 2003 (Sooanbo, Korea) (韓国社会経済学会, 2003年夏季大会, 韓国)
- (11) 「変動相場制の調整機能再考—国民生活への影響を中心において—」生活経済学会2005年度大会 (一橋大学), セッション「金融II」, 2005年5月14日
- (12) 「現代における金 (Gold) の貨幣性—金生産, 金生産コスト, 金市場価格—」日本金融学会

- 2008年度春季大会（成城大学），D会場（321教室 3号館2階）セッション：現代の諸問題，
討論者：藤田誠一（神戸大学），2008年5月17日
- (13) 「現代における金の貨幣性—金生産，金生産コスト，金市場価格—」経済理論学会第56回大会（九州大学），第7分科会（101教室）：『資本論』の現代的可能性(2)，コメンテーター：岩見昭三（奈良産業大学），2008年10月25日
- (14) 「証券化についての原理論的再検討」証券経済学会，第72回大会（松山大学）コメンテーター：2009年10月（「証券経済学会年報」第45号，2010年7月，198-202）
- (15) 「物価変動の変容から見た2008年経済恐慌」経済理論学会，第57回大会（東京大学），2009年11月
- (16) 「物価変動の変容からみた08恐慌」基礎経済科学研究所現代資本主義研究会（神戸市長田市民センター）2010/05/22
- (17) 「ドイツにおける金の価値と貨幣価値をめぐる近年の研究動向」経済理論学会第60回大会（愛媛大学）2012/10/07
- (18) “The 2008 Economic Crisis from the Perspective of Changes in Price Movements”, 12TH INTERNATIONAL POST KEYNESIAN CONFERENCE (University of Missouri, Kansas City), 2014/09/25
- (19) “Rethinking the Concept of Credit Creation and the Recent Policy of the Bank of Japan from Marxism Economics”, 12TH INTERNATIONAL POST KEYNESIAN CONFERENCE (University of Missouri, Kansas City), 2014/09/28
- (20) “Gold as Money and Implication of Gold Price”, The Friday Seminar (Economics Club of University of Missouri, Kansas City), 2015/02/06
- (21) 「為替相場を通じた所得再分配から見たアベノミクス」，経済理論学会第63回大会（一橋大学），2015/11/22
- (22) 「アベノミクス下の地域経済から中小企業を考える」，中小企業家同友会2016年新春例会（ホテルニューオウミ），2016/01/21
- (23) 「アベノミクスの作用とその原因」，日中学術交流検討会（西南财经大学），2016/03/08
- (24) 「標準的（主流派）経済学カリキュラムに異議を唱える欧米の動向：世界連合が提案する経済教育の代案」，経済教育学会第33回全国大会（富山大学），2017/10/01
- (25) 「格差，企業統治，金融化を考える—『資本論』第3巻第5編第23章「利子と企業者利得」を手がかりに—」，基礎経済科学研究所 2018年春集会（立教大学），2018/03/18
- (26) 「リーマンショック後の金融政策の特徴には変化があるのか—金融肥大化と変動相場制下におけるゲームのルール—」，信用理論研究会2018年度春季大会（國學院大學），2018/5/28
- (27) “Considerations on Inequality, Corporate Governance, And Financialization: Insights from Capital, Vol. III, Part V, With Chapter 23 ‘Interest and Profit of Enterprise’ as the Clue.”, Association for Evolutionary Economics Annual Meeting (San Diego, USA), 2020/1/3
- (28) 「リーマンショック以降のFRBの金融政策はどのように変化したのか」，アメリカ経済史学会2022年度5月例会（アクトシティ浜松 研修交流センター51 研修交流室），2022/5/21

- (29) “Differences of Unconventional Monetary Policy between US and Japan”, Association for Evolutionary Economics 2023 Conference Program, AFEE @ ASSA 2023 Program (J. W. Marriott New Orleans), 2023/01/07
- (30) 「バブル経済下の物価変動の変容から見たポスト・パンデミックおよびウクライナ戦争下の物価高騰の考察」経済理論学会第71回大会（東北学院大）共通論題全体会「現代の物価変動をどうみるか：その構造・実態・影響を考える」2023年11月4日
- (31) “The Nominal Effect of Exchange Rate and Variant of Carry Trade -Lessons from Experience in the Beginning of the Abe Administration”, Association for Evolutionary Economics 2024, AFEE @ ASSA 2023 (Marriott Riverwalk, Bonham, SAN ANTONIO TX, USA), 2024/01/06

[その他の報告]

- (1) “International Capital Movement and the Real Estate Price”, the Pacific Rim Conference (University of California, Riverside, USA), 1998.3.28
- (2) “Japanese Financial Bubble-Its Domestic Aspects and International Aspects-”, Department of Economics Seminar Series (State University of New York at Buffalo, USA), 2000.5.5
- (3) “The Japanese Bubble: Domestic and International Aspects”, Political Economy Seminar (University of California, Riverside, USA), 2000.6.5
- (4) 「金の貨幣性の検証—金市場動向と金費用価格」独占研究会（東京経済大学），2011/01/26
- (5) 「経済危機下の日本銀行の金融政策」独占研究会（明治大学），2012/10/27
- (6) “Gold as Money and Implication of Gold Price”, The Friday Seminar of the Economics Club (University of Missouri, Kansas City), 2015/02/06
- (7) 「コロナ禍で拡がる格差—地域経済の課題は何か—」立命館大学社会システム研究所 2020年度公開シンポジウム「何が変わり、何を变えるのか？—コロナ禍で見てきた課題グローバルに議論する」, 2021年1月25日（月）（『社会システム研究』（立命館大学社会システム研究所）第43号, 2021年9月, 25-41）

[学会討論者（コメンテーター）]

- (1) 日本金融学会1994年度秋季大会（中京大学），報告者 吉田真広（國學院大學栃木短期大学）氏「公的債務と為替相場変動の関係について—1914年から1927年のフランスにおける為替相場変動を例証として—」1994年11月12日
- (2) 日本金融学会2001年度春季大会（慶應義塾大学），報告者 福光寛（成城大学）氏，「レンドライニング論から金融排除論へ—融資差別論の展開とその意義」2001年5月26日
- (3) 信用理論研究会2003年度秋季大会（同志社大学），大会テーマ「ドル国際通貨体制の現状と将来」；報告者 小川英治（一橋大学）氏「アメリカの経常収支赤字の持続可能性と基軸通貨ドル」，片岡尹（大阪市立大学）氏「ドル本位制の構造—ドル本位制の反芻—」2003年10月27日

- (4) 信用理論研究会2004年度春季大会（慶應義塾大学），大会テーマ「貨幣理論の現代的課題」；報告者 前畑雪彦（桜美林大学）氏「不換制の貨幣理論としての紙幣流通法則—貨幣数量説・金廃貨論批判—」2004年5月17日
- (5) 報告者：Dymski, Gary (University of California, Riverside) 「The Development of Financial Globalization and Korea」, 大西広（京都大学）「Capitalistic Transformation of the North Korean Economy」, 立命館大学コリア研究センター（RiCKS）国際シンポジウム「世界経済の変化と転換期の韓国経済」, 4月13日（金）国際平和ミュージアム 中野記念ホール
- (6) 信用理論研究会2007年度春季大会（駒沢大学），大会テーマ，「サブプライローンと信用理論」, 報告者：飯島寛之（高千穂大学）「証券化商品の膨張と現実資本」, 細井博則（国学院大学）「転換点に立つ金融の国際化・証券化と基軸通貨ドル体制」, 米田貢（中央大学）「サブプライムローン問題と金融危機管理——1980年代の日本の金融危機管理との比較で——」, 2008年5月19日
- (7) 日本金融学会2011年度秋季大会（近畿大学）：報告者 福光寛（成城大学）氏，「戦略的デフォルト strategic defaults について」2011/09/18
- (8) 信用理論研究会2013年度春季大会（大東文化大学・大東文化会館），大会共通テーマ「現代の財政・金融危機と中央銀行—『量的緩和』, インフレ・デフレの再検討—」, 報告者：前畑雪彦（桜美林大学）「非伝統的金融政策の競争的展開と現代資本主義の矛盾」, 相沢幸悦（埼玉大学）「世界経済危機下の日米欧の『大胆な金融緩和』」, 代田純氏（駒澤大学）「円高・デフレ・日本銀行の為替介入」, 2013年5月27日（月）
- (9) 経済理論学会 第69回大会（北星学園大学）共通論題：「コロナ禍と現代資本主義」, 報告者：内藤敦之 [大月短期大学] 「コロナ禍の日本経済—ポスト・ケインジアンからの視点からのマクロ経済分析—」, 竹野内真樹 [北星学園大学, 東京大学・名] 「COVID-19 と「グローバルイゼーション」—IT産業・国家警備・国家機能—」, 阿部浩之 [高崎経済大学・非, 大井町メンタルクリニック] 「資本主義と医療サービス—グローバル化により増幅するパンデミック下で考える— [仮]」, 2021年10月16日（土）